

提案23 100年後の職住近接立体都市の創造

1. 提案の背景

東京圏における都市再生の必要性

職住近接指向

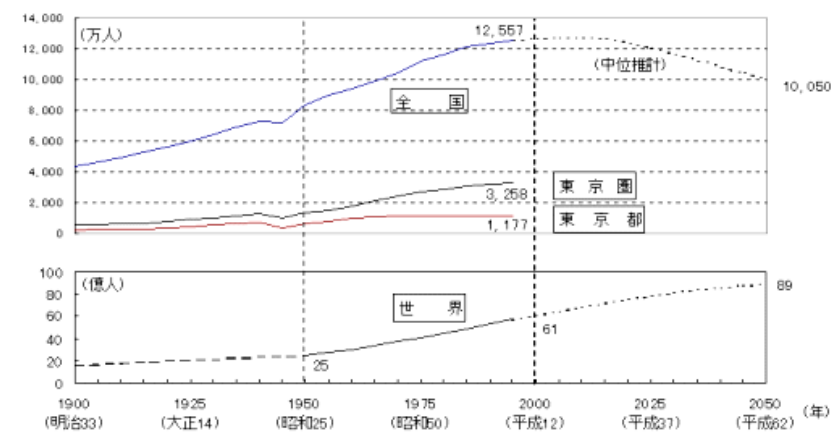
都の人口は都心回帰の傾向が見られ、15年後までは横這いでその後減少傾向

今後、道路はITSの導入、鉄道からリニアの実用化により交通形態が変化

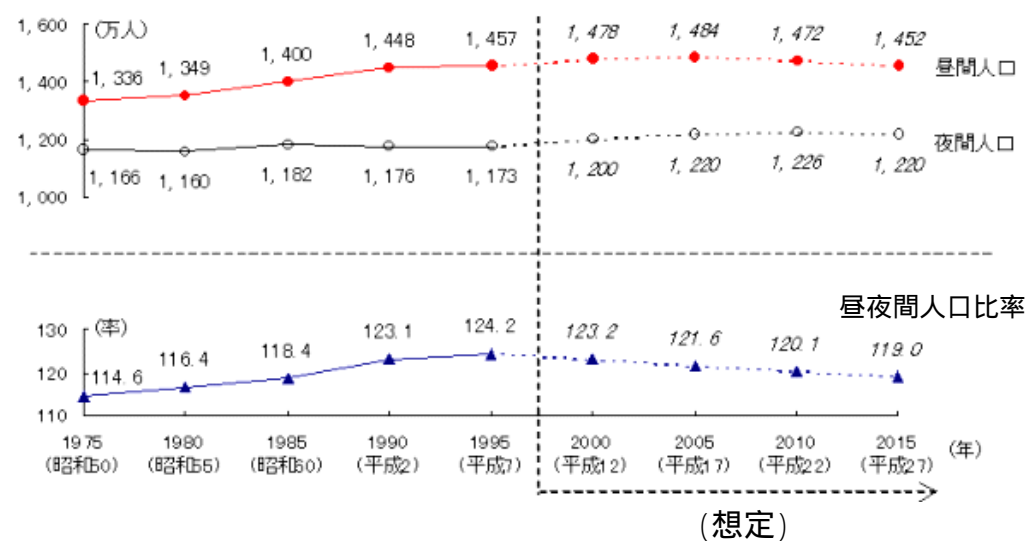
人口減少は50年後、全国で2割と推計

ただし、都の昼夜間人口比率は低下傾向

都の人口推計

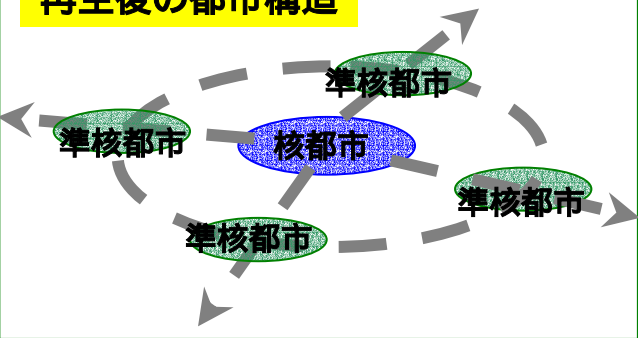


昼夜間人口比率の推計

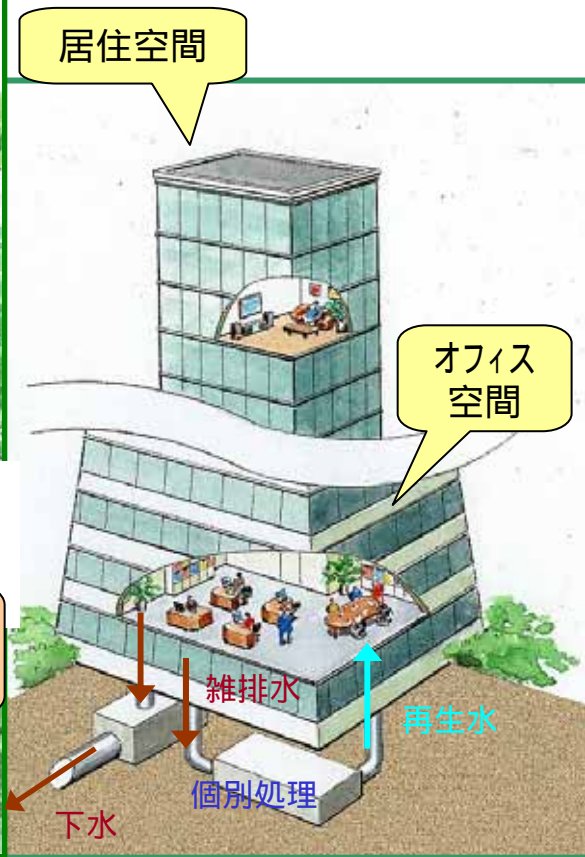
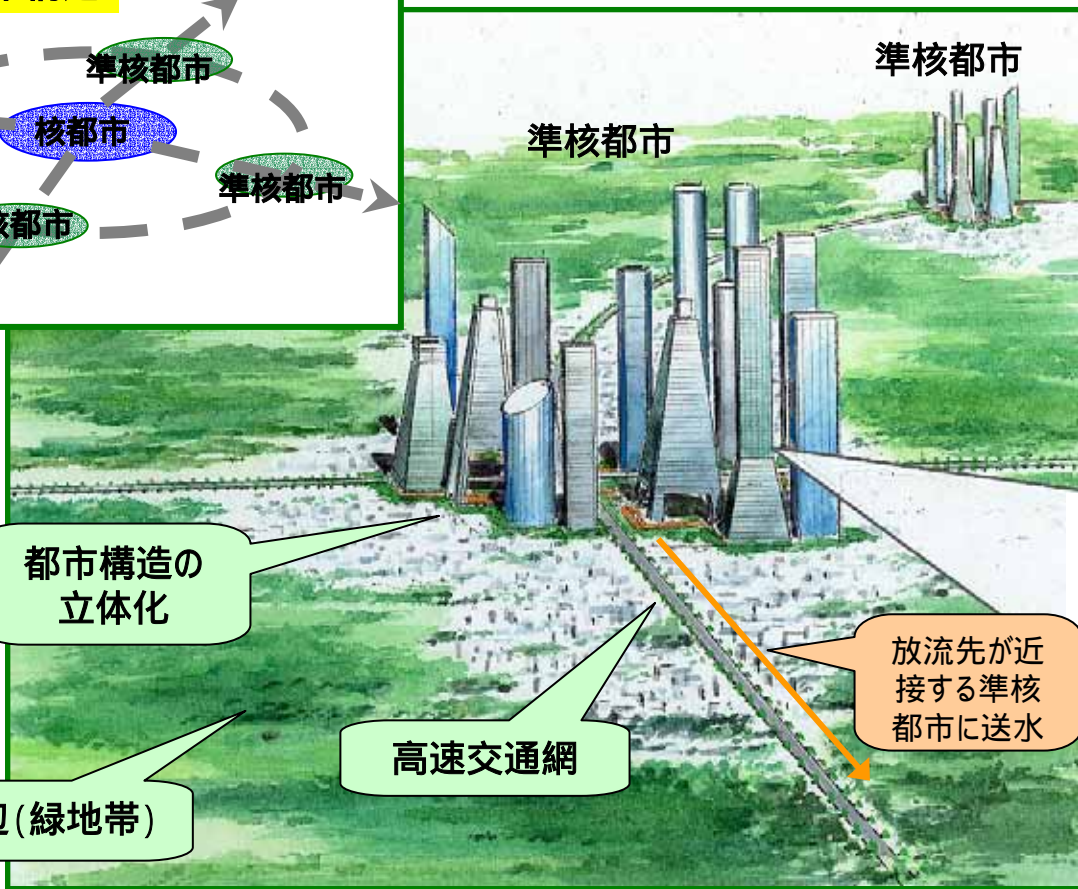


2. 提案の概要

再生後の都市構造



職住近接型都市



都市構造の
立体化

高速交通網

周辺(緑地帯)

放流先が近
接する準核
都市に送水

居住空間

オフィス
空間

雑排水

再生水

下水

個別処理

個別循環

核都市・準核都市内の
各建物ごとに下水を再
生利用

下水道システムの姿



放流先が近接する核都市
に送水

最終処理

下水と汚泥を集約処理
し放流

3. 提案の効果

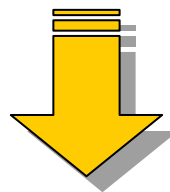
通勤時間の減少による余暇の創出 生活に時間的なゆとり

核都市、準核都市に適度にバランス良く人口が集約され、職住
近接により昼夜の人口変動が少ない 水量が安定

高層建物で個別循環し、最大限再生利用 水量は減少

立体化により広大な土地を創出 緑化により環境整備

河川の拡幅が可能 流下能力のアップにより、現在の都市内
降雨は速やかに放流



現在の平面的に広がる形態ではなく都市構造にあった点と線により
ネットワークを構成するコンパクトでスリムな下水道システム

4. 実現のためのシナリオ

建物の高層化に向け容積率の緩和など、
規制基準の緩和が不可欠



既存の自治体(行政)の枠を撤廃

- ・下水道管理者と河川管理者
- ・核都市と準核都市、準核都市同士のそれぞれが役割分担

